



福田 臨太郎 一般・消化器外科部長

山口県出身 福岡大学卒業 青森県十和田市立病院勤務

自治医大附属さいたま医療センター勤務

2021年1月 城西病院入職

外科専門医

消化器外科専門医、消化器がん治療認定医

内視鏡外科学会技術認定医

がん治療認定医機構がん治療認定医

2021年1月、城西病院に常勤医師として入職しました。一般・消化器外科医として大腸・胃・胆道・肝臓・膵臓などの悪性腫瘍から胆嚢炎・虫垂炎、鼠径ヘルニア（脱腸）・気胸などの良性疾患まで様々な手術を行っています。腹腔鏡・胸腔鏡の適応のある疾患に対しては悪性・良性を問わず積極的に取り入れています。福田医師が消化器外科を選んだのは、「知識と技術が不可欠で、やりがいのある診療科」と話します。

日本で腹腔鏡下手術が初めて行われたのは1990年。開腹手術に比べ、患者に与える負担が少なく、手術痕が目立たないとして、徐々に脚光を浴びてきました。現在では拡大視野で、開腹手術より繊細な手術を行うことも可能とされています。腹腔鏡下手術に加えてロボット支援手術の導入など、日々進化している分野です。そうした中で医学部を卒業し、消化器外科医として腹腔鏡下手術の経験を積み重ねてきました。城西病院勤務前まで、自治医科大学付属さいたま医療センターに7年間勤務。「培った最先端の医療の経験を周辺地域の患者さんに役立てたい」と言います。

福田医師は、入職する前に手術の応援で城西病院を訪れました。「消化器外科手術の専門医が不足しており、一人の医師として役に立てると思った」と入職の動機を語ります。

腹腔鏡下での大腸癌や胃癌など悪性腫瘍に対する手術は、大学病院など大きな病院では常に行われていますが、地方では設備やスタッフの問題で行う病院が限られます。「城西病院では、限られた人材の中でスタッフに協力していただき、手術だけでなく化学療法も含めて大学病院と遜色ない治療を行うことができます。」と太鼓判を押す福田医師。内視鏡外科学会技術認定医は、内視鏡手術を適切に行うとともに、指導医として専門医を育てる技量があるとして認定されます。この度、福田医師のもとで技術を磨きたいと若い医師が城西病院に入局しました。「外科手術はチームワークが必要です。若い先生が来てくれて、さらに質の良い医療が提供できるようになればと日々尽力しています。このコロナ禍で直接交流を持つことが難しいですが、多くの方に城西病院・外科を知っていただき、地域に貢献していきたい。」と話します。

「外科医として、できることを最大限に尽くし、この地域に最良の医療を提供したい」をモットーに、日々患者と向き合っています。福田医師は学生時代、サッカーに打ち込み、2005年に大学を卒業し臨床研修医修了後はミャンマーで1年間、医療ボランティアに従事するという経歴を持ちます。僻地や医療過疎の地域でも先進医療を当たり前提供したいと、志を持って城西病院に毎日通っています。

趣味は車とオートバイ。通勤や近隣の病院へは、大型のオートバイで駆け巡っています。「サッカーやフットサルも機会があればやりたいけどこれも時間がない」と笑います。